第６学年社会科学習指導案

指導者　　三森　翼

１　単元名　　「近代国家への歩み」

２　単元について

本単元では，学習指導要領の内容（１）「キ　黒船の来航，明治維新，文明開化などについて調べ，廃藩置県や四民平等などの諸改革を行い，欧米の文化を取り入れつつ近代化を進めたことが分かること」に基づき，山梨における時代の変革期をとらえることを基に，近代化の進む背景について理解を進める。

開国して文明開化により，人々の暮らしは激変した。洋服や食べ物の西洋化や，鉄道・通信の発達など今の私たちの生活に欠かせない事物がこの時期に広まり整った。しかし，この時代に日本各地に一斉に文明開化が起こったのではない。それは東京や横浜，大阪など都市中心の出来事であって，江戸時代同様の農村風景の中で生活を営む地域や人々が多かった。山梨にも文明開化の波が遅れて到来することになるが，自分たちの住んでいる山梨がいつごろ，どのような形で文明開化が行われたのかをとらえることで，子どもたちの興味関心が高まると思われる。まちや生活が大きく変わったのは，開国と明治政府の西洋諸国に追いつくための国づくりが要因である。大きく変化した様子を都市部からと山梨の両面から具体的に捉えることで，明治政府のどのようなとりくみによるものなのか主体的に追求していけるようにしたい。

本単元で扱う近代の歴史は，政治や経済の状況，国際関係，社会の変化と，どれをとっても複雑で急速な展開をみせる。抽象的なことがらも多くなり，前近代までの学習に比べて，児童には理解が困難になる場合がある。政治のしくみなどは現在のものと対比させたり，明治時代の社会の変化と今の暮らしとのつながりを確認したりしながら,関心を高め,具体的に理解できるようにしたい。また，近代の歴史の学習では，歴史事象の相互の関連や因果関係をていねいに読み取ることが特に重要になってくる。事実の意味や影響を考えることを通して，歴史事象を多面的にとらえることができるようにしたい。現在の見慣れた景色や建築物につながるような写真資料などを扱うことによって，自分たちの現在の生活につながっていると実感させるようにすることで，児童の意識の中で昔と現在を近づけるようにしていきたい。

本単元では，開国の経緯や影響をつかみ，人々がどのような思いをもち，どのような活躍をしたのか，社会の様子はどう変わったのかを，興味・関心をもって学んでいくようにしたい。特に，明治維新により江戸時代に比べ，洋服，建築様式，鉄道，食べ物，学校制度など大きく変わったことに気付かせたい。また，山梨の人々の暮らしの変化や産業の変化に着目させ，興味をもって追求できる活動を取り入れていきたいと考える。甲州市や山梨県内の地域を含めた資料をもとに考える活動にとりくませるとともに，効果的な資料提示の工夫を行い，児童が意欲的に追究していけるようにしていきたい。

３　単元の目標と評価規準

（１）目標

明治政府ができ，欧米の制度や文化を取り入れて国のしくみを整えていったことを調べ，産業の発展などの近代化を進めていった経過や，その目的を理解することができるようにする。

（２）評価規準

【社会的事象への関心・意欲・態度】

明治政府が，産業を盛んにして国を富ませ西洋諸国に追いつけるような国づくりを目指し，文明開化によりまちの様子や人々の暮らしが変化していくことに興味をもち，その経過について意欲的に調べようとする。

【社会的な思考・判断・表現】

明治政府が近代国家としてのしくみを整えていった様子を，前の時代からの変化や外国との関係から考えることができる。

【観察・資料活用の技能】

絵図・写真・地図などの資料を活用して，明治政府の政策について国際的背景を考えながら調べることができる。

【社会的事象についての知識・理解】

明治維新で大きく変化したことや，明治政府が諸改革を行って近代的な国家づくりを目指したことを理解することができる。

４　児童の実態

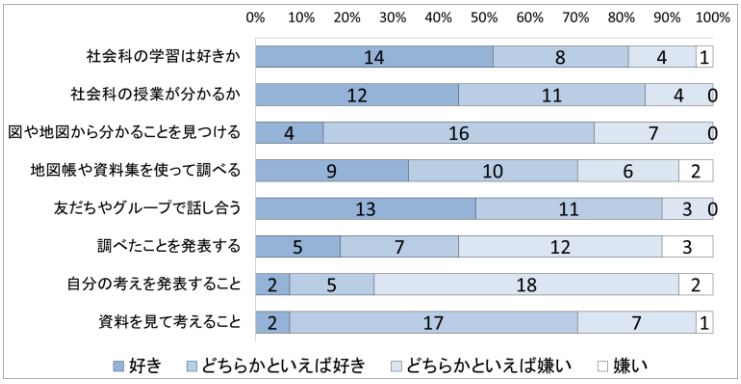
男子１３名，女子１４名，計２７名の学級である。学級の児童は，明るく素直で，学習に対して意欲的にとりくもうとする姿が多く見られる。学習中は，ほとんどの児童が話を聞く姿勢が身に付いてきている。しかし，発表する場面では，自分の考えをもっていても自信がもてずに周りの友だちの様子をうかがったり，小さな声での発表になってしまったりする様子が見られる。また，ペアやグループでの話し合いを発表する場面でも，特定の児童に頼りがちな傾向が見られる。また，資料を読み取り，自分で根拠を考えたり，まとめたりする力は十分ではない。

これまでの学習では，一斉授業を中心に，時代の特徴をとらえられるようにしてきた。資料の教室掲示や，複製資料に実際に触れることなどを通して，意欲喚起を促すように努めているところである。興味をもった課題については自主学習などで進んで調べている児童もいるが，意欲の差が大きいと感じている。

本単元を進めるに当たり，児童に社会科についての意識調査を行った。　―　グラフ１

（１）社会科の学習は好きですか

事前調査では，「好き」「どちらかといえば好き」の児童が 22 人（81.5%）であった。その理由は，「昔のことや歴史を知りたいし，楽しいから」「歴史上の人たちがしたことが様々でおもしろいから」などが多くを占めていた。一方，「嫌い」「どちらかといえば嫌い」と答えた児童では，「算数みたいに考えることが少ないから」「暗記が多いから」などがあった。これは，教師主導の一斉授業が中心であり，一度に多くの知識を身に付けることを負担だと感じているためではないかと考えられる。



グラフ１：社会科についての意識調査

（２）社会科の授業は分かりますか

事前調査では，23 人（85.2%）の児童が社会科の授業は分かる，どちらかといえば分かると答えている。「映像や写真などがあるから」「分からなかったら，ノートを見ればいいから」などの回答から，資料や板書を元に理解している児童が多い。一方，社会科の授業が分からない，どちらかといえば分からない児童の理由としては，「頭に全然入らない」「自分の考えの理由とちがうと分からない」などがあった。やはり歴史学習に対し，「暗記をしなければならない」という強いイメージがあると考えられる。

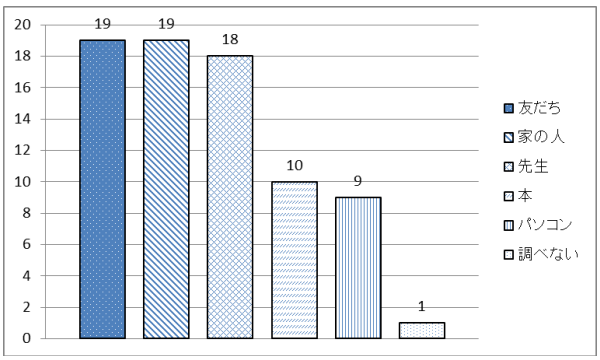
（３）社会科の言語活動について

特に課題として感じているのは，「自分の考えを発表すること」が嫌い，どちらかといえば嫌いという児童が 20 人（74.1%）いることである。どの教科においても発言を苦手とする児童が多く，発言する児童が固定化されてきてしまっている。そこで，「友だちやグループで話し合う」活動を通し，できるだけ児童同士が話し合うことにより，課題解決へと導いていけるように努めている。

また，資料を見て考える学習については，８人（約 30%）の児童が嫌い，どちらかといえば嫌いと答えている。資料からの読み取りを含めて，情報を元に課題解決していく活動が求められていると考える。

（４）分からない言葉が出てきたらどうしますか（複数回答）　―　グラフ２

調べる活動についての調査である。疑問を感じたときに，友だちに相談して解決しようとする姿が多く見られる。しかし，本やパソコン等，自分で探し出すことは多くない。自ら探究する活動を取り入れていくことが大切だと考える。



グラフ２：分からない言葉が出てきたらどうしますか

５　指導計画および評価計画　　総時数　８時間

時	学習内容	目標	評価規準
1	黒船が来た ○黒船来航の絵図とペリーの肖像から，黒船の来航に対する人々の反応を考える。 ○黒船来航の目的と，幕府の対応について調べる。 ○開国が社会や人々の暮らしに与えた影響を予想する。	○黒船の来航とそれに対する幕府の対応を調べ，外国との交易が始まっていく流れをつかみ，それが国内に及ぼした影響について学習課題を設定することができるようにする。	○絵図などを読み取り，黒船来航に対する当時の人々の気持ちを考えることができる。【技能】 ○開国し，アメリカなどの国々と条約を結んだことが，日本が大きく変わるきっかけとなったことを理解することができる。【思考・判断・表現】
2	江戸幕府がたおれる ○打ちこわしの絵を見て，何をしているところか話し合	○開国による人々の暮らしの変化や，新しい政治を目指す動きの強まりを調べ，国	○開国の影響で経済が混乱し，人々の暮らしが大きく変わっていったことをとら

	う。 ○打ちこわしが起こった理由を考え，開国との関係を話し合う。 ○新しい政治を目指そうとする動きを調べ，江戸幕府がたおれた経緯と要因をまとめる。	内外からの力により，武士の世の中が終わっていく経緯をとらえることができるようにする。	えることができる。 【思考・判断・表現】 ○江戸幕府がたおれた理由を多面的にとらえることができる。　【知識・理解】
3 本 時	山梨の暮らしの変化 ○写真や絵図から，山梨における明治時代になってからの変化について考える。 ○なぜ世の中は大きく変わったのか，またどのような変化があったのか話し合い，単元の学習につなげる。	○資料をもとに，江戸と明治との比較から，まちの様子や人々の暮らしが大きく変化したことに気付き，なぜ変わったのか疑問をもち新しい国づくりへの興味・関心をもつことができるようにする。	○写真や絵図資料からわかることを読み取ることができる。　【技能】 ○新しい国づくりに対する興味・関心をもつことができる。　【関心・意欲・態度】
4	新しい政府をつくる ○五か条の御誓文から，明治政府がどのような政治を目指したのか話し合う。 ○新政府が行った改革について調べる。 ○新政府が行った改革は，人々にどのように受け止められたのか考える。	○明治政府が行った諸改革を調べ，政府がどのような国づくりを目指したのかを考え，その特徴をとらえることができるようにする。	○新政府の行った改革の目的と内容を理解することができる。　【知識・理解】 ○新政府が進めた改革についてのその当時の人々の思いについて，生活の変化と結びつけて考えることができる。　【思考・判断・表現】
5	西洋に追いつけ ○「鉄道が走るまちの様子」をもとに，人々の暮らしがどのように変わってきたのか，気付いたことを話し合う。 ○政府が行った改革について調べる。 ○政府が何のために国力を高めようとしたのかをまとめる。	○明治政府が，産業を盛んにして国を富ませ，近代的な軍隊を組織して，西洋諸国に追いつけるような国づくりを目指したことを理解できるようにする。	○政府が近代工業をおこしたり，外国人技術者から進んだ技術や知識を取り入れようとしたりしたことを，新しい国づくりと関連づけて考えることができる。 【思考・判断・表現】 ○政府が行った，制度を整え国力を強くしようとする改革について，理解することができる。　【知識・理解】
6	人々の暮らしが変わった ○まち並みや人々の暮らしの変化について，気付いたこ	○資料をもとに明治維新前後の比較から，文明開化によりまちの様子や人々の暮ら	○明治初めの人々の暮らしの変化を調べることができる。　【技能】

	とを出し合う。 ○人々の暮らしの変化について調べ，話し合う。 ○西洋風の制度や考え方が入ってきた影響についてまとめる。	し，学校教育の変化を調べ，新しい時代になって西洋風のものが多く取り入れられたことをつかむことができるようにする。	○西洋風の制度や考え方が取り入れられたことで，人々の暮らしだけでなく考え方も大きく変わったことを理解することができる。 【知識・理解】
7	自由民権運動が広まる ○西南戦争など各地で起こった反乱について調べ，新政府の行った改革との関連を考える。 ○自由民権運動の演説会の絵にせりふをつけながら，人々が何を願い，求めていたのかを考える。 ○自由民権運動がどのような人々によって進められ，何を目指したのかをまとめる。	○西南戦争や自由民権運動の高まりについて調べ，人々が新しい政治に対してもっていた願いについて考えることができるようにする。	○演説会場にいる人々の思いや願いに関心をもち，せりふを考えることができる。 【関心・意欲・態度】 ○自由民権運動が高まったことを，国民の政治に対する願いとのかかわりでとらえることができる。 【思考・判断・表現】
8	国会が開かれる ○「大日本帝国憲法の発布式」を見て，気づいたことを出し合い，大日本帝国憲法に興味・関心をもつ。 ○大日本帝国憲法の内容について調べる。 ○政府は，大日本帝国憲法を発布することにより，どのような政治を行おうとしたのかをまとめる。	○大日本帝国憲法制定までの過程を調べ，明治政府が目指した政治の在り方がどのような形で完成していったのかについてとらえることができるようにする。	○大日本帝国憲法の特徴を調べることができるようにする。【技能】 ○大日本帝国憲法の制定を通して政府が目指す国づくりについて理解することができる。【知識・理解】

６　本時の学習

（１）日時　　２０１４年８月２９日（金）５校時　１４：００～１４：４５

（２）場所　　甲州市立塩山南小学校　６年１組教室

（３）題材名　山梨の暮らしの変化

（４）目標　　資料をもとに，江戸と明治との比較から，まちの様子や人々の暮らしが大きく変化したことに気付き，なぜ変わったのか疑問をもち新しい国づくりへの興味・関心をもつことができる。

（５）展開

過程	児童の活動および学習内容	教師の指導と支援	評価と備考
つかむ １０分	１．山梨に関係する，江戸と明治の絵図・写真を比較して，気付いたことを出し合う。　（全体） Ａ：かわら版と新聞 ・ぐにゃぐにゃした字ときれいな字 ・見やすくなった Ｂ：寺子屋と学校 ・お寺と学校みたいな建物 ・学校は少しおしゃれ Ｃ：甲州街道と鉄道 ・歩きと汽車 ・楽になった	○それぞれの絵図・写真を提示し，見てわかることを中心に気付いたことを発表させる。	・地域資料 ―　①②③④⑤⑥ ○写真や絵図資料からわかることを読み取ることができる。 【技能】
	なぜ江戸と明治で暮らしが変わったのだろう		
調べる １５分	２．これらの新しい文化はなぜ取り入れられたのか，変わったことによりどのように生活が変化したのか理由を考える。　（グループ） Ａ：１・２班 ・たくさん印刷しなきゃいけないから ・いろいろな人が情報を知ることができるようになったから Ｂ：３・４班 ・みんなが勉強するようになったから ・学校が必要になったから Ｃ：５・６班 ・たくさんの人や物が運べるから ・長い距離を早く移動したいから 	○グループごとに，江戸時代の何をどのように変えたのか見つけさせ，なぜ変わったのか考えさせる。 ・各グループに補助資料を与え，そこから理由を導きだせるように支援する。	・補助資料 Ａ：作り方 Ｂ：教科書・教えている様子 Ｃ：塩山の地図

ふかめる15分	3．グループで話し合ったことを発表し，全体で共有する。（全体） 	○なぜ変化したのかについて，資料や既習内容から根拠に基づいて発表できるようにする。 ・グループごとに発表させ，他のグループからも意見があるようなら出させる。	
まとめる5分	4．明治政府が積極的に西洋のものを取り入れようとした意図をとらえる。（全体） ・外国に負けないように，進んだ技術を使おうとした ・新しい国づくりを進めようとした	○既習の学習をもとに改革しようとした意図をつかませる。 ○次時の学習につなげる。	○新しい国づくりに対する興味・関心をもつことができる。 【関心・意欲・態度】

（6）評価

○写真や絵図資料からわかることを読み取ることができる。【技能】

○新しい国づくりに対する興味・関心をもつことができる。【関心・意欲・態度】

（7）板書計画

山梨の暮らしの変化　なぜ江戸と明治で暮らしが変わったのだろう

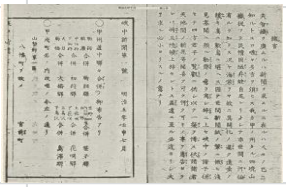
江戸		明治
・絵がのっている ・見にくい ・見出し ・手書き ・つながった字 	・外国とのやりとりで世界のことを知ったから ・天皇の命令	 ・字しかない ・カタカナ
・門がある ・寺 ・やっていることがばらばら 	・校舎までの時間 ・差別がなくなってみんな一緒に	 ・２階建て ・普通の家みたい ・入ってすぐにある ・同じことをやっている
・時間がかかる 	・重いものを持つのが大変 ・すぐに県外に ・外国からの技術が伝わってきたから	 ・速い ・行き帰りが楽 ・長距離が楽

7　ワークシート

山梨の暮らしの変化

6年1組　　名前

気付いたこと



気付いたこと

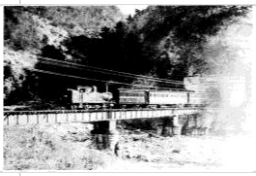
＜なぜ変わったのだろう＞

気付いたこと

気付いたこと

＜なぜ変わったのだろう＞

気付いたこと



気付いたこと

＜なぜ変わったのだろう＞

〇写真資料

かわら版：遠江駿河甲斐伊豆相模武蔵大地震之圖

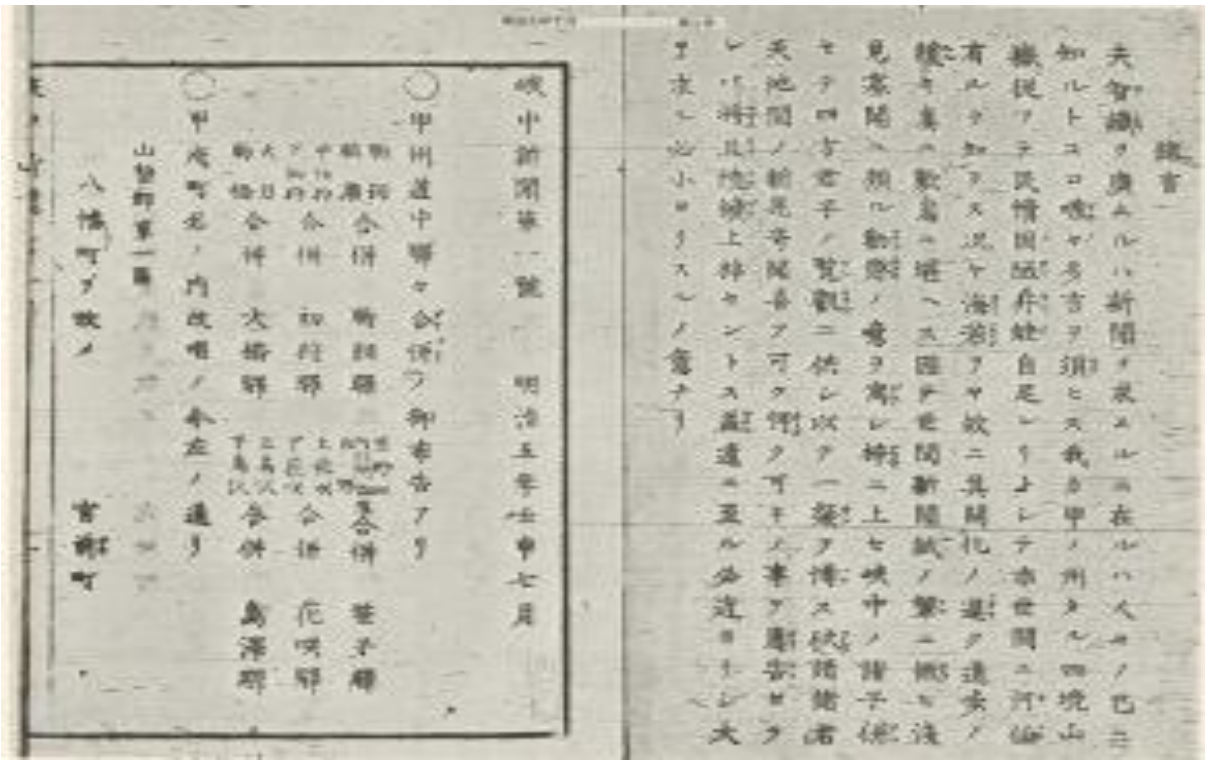
安政江戸地震の直後から大量に出回った摺り物には，絵の周囲が文字で埋め尽くされたものが多い。それらは，絵を見るだけでなく，文字を読まなければ面白さが分からないのであるが，しかし文字を読んだとしても，我々にはその意味が分かりづらいことが多い。特に，もじりや見立になっているものは難解である。

もじりであっても，見立であっても，それは，パロディー化される元が広く普及しているということが前提になっている。地震後の摺り物に見るもじりや見立は，歌舞伎狂言，流行の唄，商家の引札，往来物，読物，見世物口上などが元となっている。これらは我々にはなじみが薄く，それ故に我々にはもじりの面白さが通じにくいのであるが，当時の平均的な教養のある人にとっては，ごく普通に目にするもの，耳にするものばかりであった。

もじりや見立になっている地震関係の摺り物に共通しているのは，パロディー化される元は様々であるが，結局は，地震が起こった，家屋が崩れた，避難生活が続いているなど，同じようなことを記しているということである。つまり，摺り物の作者側としては，もじりによって何か特別な状況を伝えようとしているのではないように思われる。どちらかといえば，皆が現在置かれている状況を，誰もがよく知っている何かを元に，いかに面白可笑しく，うまくもじるかという遊びとして書いているのではなかろうか。

＜「地震火災版画張交帖」（石本コレクションⅠ）＞
http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ishimoto/index.html
http://gazo.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/ishimoto/1/01-024/00001.jpg

新聞：峡中新聞　第一號



［近代新聞］

定期刊行の日本最初の近代新聞は，1871 年創刊の《横浜毎日新聞》で，同紙は日本最初の日刊紙でもあった。72 年には《東京日日新聞》(《毎日新聞》の前身)，《郵便報知新聞》(《報知新聞》の前身)，現存最古の地方紙《峡中新聞》(《山梨日日新聞》の前身)など後の有力紙が続々と創刊された。このころ発行された新聞の多くは，民撰議院設立論や自由民権運動を背景に政治的主張を展開したため〈政論新聞〉と呼ばれた。

文明開化といわれた明治維新期には各種の新聞が創刊されるようになった。新聞は新しい時代の到来と西洋思想及び文化を伝える手段としての役割を持っていたが，庶民は新聞縦覧所や新聞解話会のような施設や機会を通じて新聞に接するようになった。峡中新聞は 1872 年（明治５年）７月に創刊された山梨県最初の新聞。時の県令土肥実匡が県庁学務課員に命じて編集，甲府八日町の書籍商内藤伝右衛門が発行したもので，和紙を二つ折りにした８ページ立ての雑誌型の新聞だった。峡中新聞はその後甲府新聞，甲府日日新聞を経て山梨日日新聞となり，現在まで続いている。

＜サンニチ紙面で見る山梨の百年　山梨日日新聞社　1970 年 12 月＞
＜甲州文庫＞
http://www.lib.pref.yamanashi.jp/kosyu/index.html

寺子屋：慈雲寺（甲州市塩山）

江戸時代末期，当時の住職である白巖和尚により寺内に私塾（寺小屋）が設けられ近隣の子供たちに開かれた。1887 年（明治 20 年）に本堂内に学校が開かれ，1907 年（明治 40 年）には私立山梨里仁学校となり，その後，市内の千野地区に移転し太平洋戦争終了時まで存続していた。

この寺子屋では樋口一葉の父・則義が学ぶなど，地域住民にとっては寺院であると同時に教育施設としての意味合いも兼ねており，明治から昭和にかけ地域の人材育成に貢献した。

夢窓国師が開創したといわれる慈雲寺は地域教育発祥の地といわれている。境内には樋口一葉の文学碑があり，碑文は幸田露伴が書き，裏面には明治の文豪たちが名前を連ねる。また樹齢３００年を超えるといわれる県指定天然記念物のイトザクラがあり，その美しい姿は毎年多くの人々の心を魅了している。

＜Wikipedia　慈雲寺（甲州市）＞
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E6%85%88%E9%9B%B2%E5%AF%BA_(%E7%94%B2%E5%B7%9E%E5%B8%82)
＜山梨県甲州市観光協会　ぐるり甲州市＞
http://www.koshu-kankou.jp/map/jinjya/jiunji.html

学校：旧千野学校（現・中央区区民会館）

甲州市塩山上於曽。

木造２階建て，延べ床面積１２９㎡。1879 年（明治 13 年）に東山梨郡第 12 学区小学校として開校。千野地区にあったことから「千野学校」と呼ばれた。1943 年（昭和 18 年）に廃校となり，48 年に塩山市警察署庁舎として現在の位置に移築。58 年からは県立図書館の塩山分館として使用され，２階に掲げられた「中央区一坪図書館」という表札にその名残を見ることができる。82 年から中央区の区民会館として利用されている。

いわゆる藤村式の学校建築で，寄棟造，２階建の正面に切妻造の玄関棟が附属する独特の外観は，改造があるが，校舎としての面影を残しており，多くの人々に親しまれている。

＜文化遺産オンライン＞
http://bunka.nii.ac.jp/SearchDetail.do?heritageId=113287
＜2012 年９月 20 日（木）山梨日日新聞 P21 地域面＞

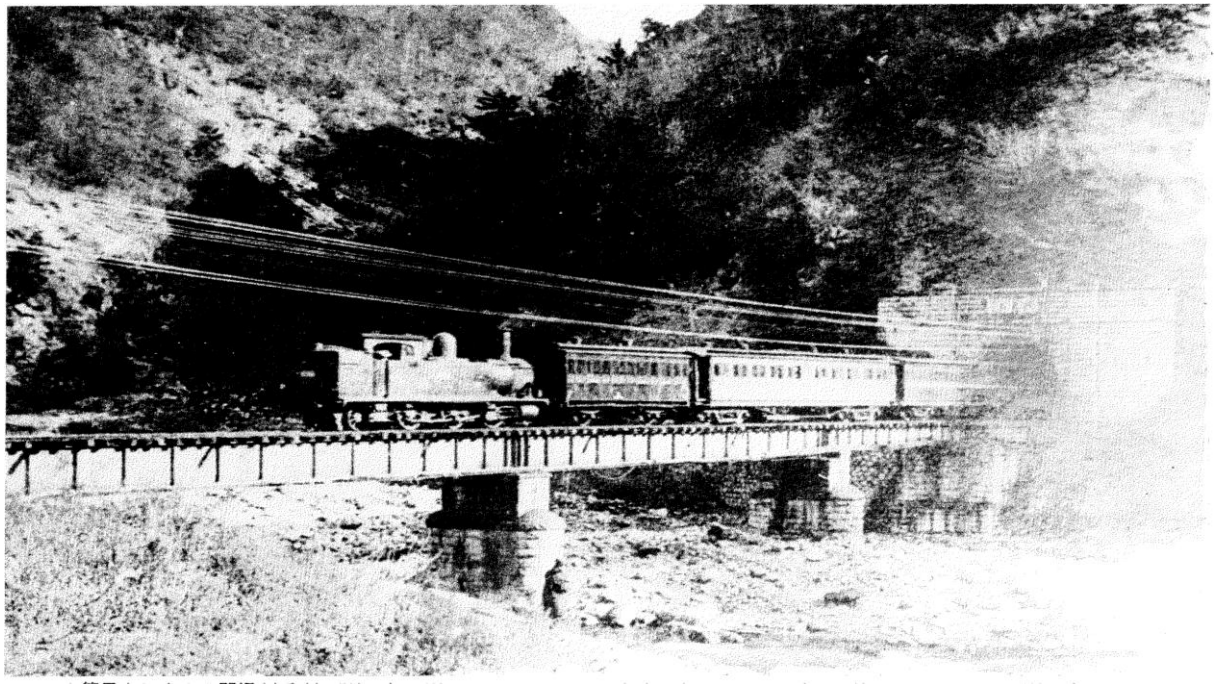
甲州街道：矢立の杉

今日の甲州街道は新笹子トンネルを通過するが，旧道は笹子峠を経由していた。現在，峠への道筋は山梨県道 212 号日影笹子線として残っている。また，この県道にほぼ平行して「笹子峠自然遊歩道」がある。この遊歩道が旧来の甲州街道にほぼ相当すると考えられる。街道を通る武士が武運を祈ったという「矢立の杉」もこの遊歩道沿いにある。県道の頂上にある笹子隧道の直上が甲州街道最大の難所と言われた「笹子峠」（標高：1,096m）である。峠を越えると甲州市である。

この杉の巨木は笹子峠の頂上から約東へ１キロ下りた南下，標高９４０ｍの所にある。この木は古くから有名で，「甲斐叢記」には「絶頂より下ること十丁ばかりにして囲二丈五尺ばかりの巨杉あり，箭立杉という。昔時軍陣に出る兵士矢一筋をこの杉に射立て富士浅間明神に賽せしといへり」とある。また，「甲斐国志」には，「巨木所在二多キ中二林戸神社二一基称橋立杉，篠子嶺二一基称箭立杉各々七囲許二餘レリ」とある。なお，この矢立の杉は，天然記念物として山梨県指定の文化財となっている。

＜Wikipedia　甲州街道＞
http://ja.wikipedia.org/wiki/%E7%94%B2%E5%B7%9E%E8%A1%97%E9%81%93
＜山梨デジタルアーカイブ＞
http://digi.lib.pref.yamanashi.jp/archive/wiki.form

鉄道：中央線笹子トンネル



4,656 メートルと当時日本一の長さを誇った笹子トンネルは，1896 年（明治 29 年）の着工以来足かけ 7 年の歳月を費してようやく完成した。この完成を待ちかねたかのように，1903 年（明治 36 年）6 月には中央本線の甲府―八王子間が営業を開始，峡東地区にも汽笛が響き渡るようになった。中央線の開通によって，それまで三日かかっていた甲府―八王子間がわずか四時間で結ばれ，立ち遅れていた県下の諸産業などに一大変革をもたらした。また，塩山，日下部両駅付近には商店街が形成され，峡東地区の経済の中心が勝沼宿など甲州街道から中央線沿線に移行する。

笹子トンネルは，日本で初めてトンネル工事用の発電所を設けて，坑内に電話や電灯を設置。ズリ（岩石や土砂）を運搬するための電気機関車とトロッコも運転され，空気圧搾機を使用するなど，最新の工事･掘削技術を先進的に導入した。それにより硬い岩盤や湧き水に苦慮しながら五街道時代から難路で知られる笹子峠に見事なトンネルが貫通した。外国人の手を借りず，日本人技術者のみによる設計のトンネルでもあり，その掘削工法は後の日本のトンネル技術の布石にもなった。

完成を祝し，トンネル東口（笹子側）の坑門には当時の内閣総理大臣･伊藤博文の揮毫による「因地利」（地の利に因んで），西口（甲斐大和側）には山縣有朋による「代天工」（天に代わって工事）の扁額が飾られている。坑門は迫石が尖った意匠を持つ勇壮なもので，山腹に誇らしげに存在している。

＜目で見る峡東の 100 年　　郷土出版社　　1991 年 3 月＞
＜トレたび　鉄道遺産を訪ねて＞
http://www.toretabi.jp/history/vol11/01.html

○補助資料

江戸時代のマスコミ，かわら版

かわら版とは，江戸時代，粘土の板に文字や絵をほって焼き，一枚ずつ刷ったもので，今の新聞にあたります。かわら版の第一号は，慶長二十年の大坂落城の時の「大坂安部之合戦図」「大坂卯年図」とされています。これらは，幕府側の記事で埋められ，幕府が勝ったことを称(たた)えるものとなっています。

その後，マスコミという観念ができ社会的に影響を持つようになったかわら版。内容は地震，洪水(こうずい)，飢饉(ききん)などの天災から，赤穂事件(あこうじけん)や大塩平八郎などの政治事件に至(いた)るまで多岐(たき)に渡ります。幕府は基本的に政治的な出版物の発行を禁止していましたが，新将軍の就任や外国使節の来日などは報じることが認められていました。

○どうやって作るの？

1．事件が起きると，判屋が専門の執筆者(しっぴつしゃ)に原稿を頼み，画家には絵を頼む。
2．できた原稿は版木(はんぎ)に貼り，彫師(ほりし)に掘らせて元版を作る。
3．この版木に刷毛(はけ)で墨(すみ)を塗り，版屋が紙を当てて刷る。

○どうやって売るの？

事件ものの際物師(きわものし)は昼間の呼び売りで，「さあ，大変だ，大変だ！」と人を集め，内容をちょっぴり聞かせ気を持たせて売りました。

また，頭に手拭を巻き，粋な身なりで，一本箸(はし)で紙面をさしながら売るのは唄(うた)もの師。美男が多く，美声で「よみうりは箸一本で飯を食ひ」と際物師と違った方法で人を集めました。

稲垣史生『江戸の大変 かわら版〈天の巻〉地震・雷・火事・怪物（コロナ・ブックス）』（平凡社,1995 年）

峡中新聞

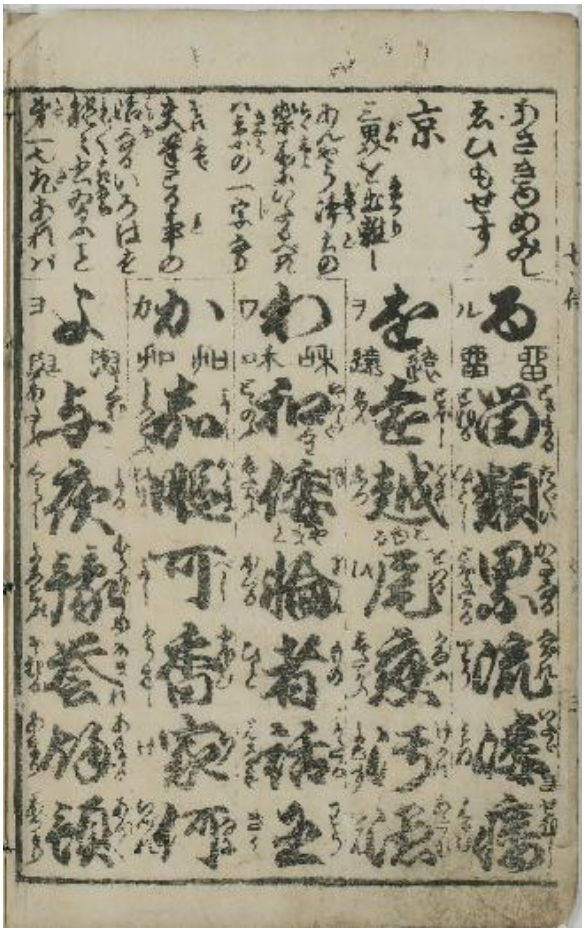
明治五年七月，甲府で創刊されたこの新聞は，東京日日新聞（毎日新聞），郵便報知新聞（報知新聞）に続く，現存最古の地方紙である。

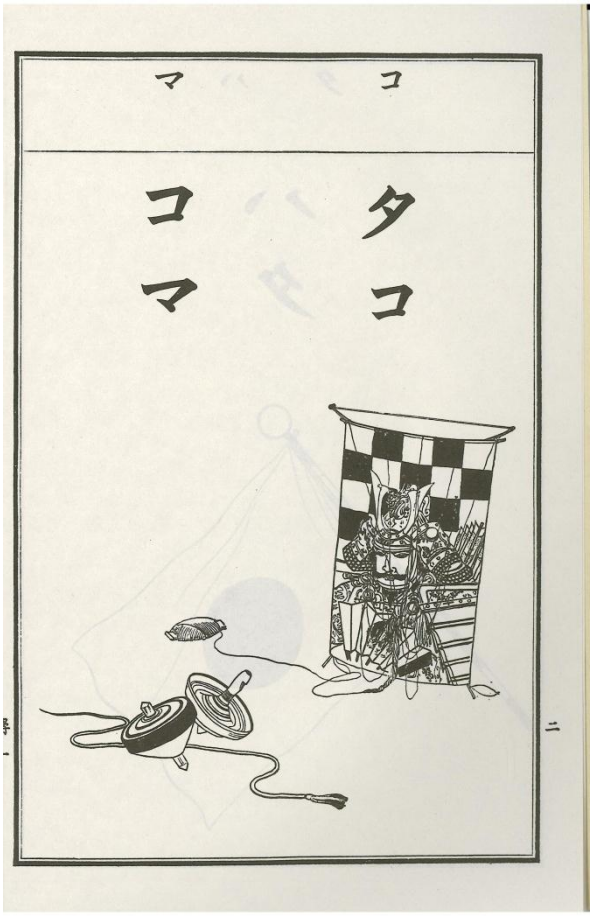
当時の新聞の多くの例に漏れず，峡中新聞も県令（今の知事）土肥実匡(どいさねまさ)の勧(すす)めで県庁の役人らが記事を書き，編集した。

このころ甲府には木版の彫工がなく，発行人の内藤伝右衛門が東京四谷の版木師(はんぎし)の家に座り込んで養子滝沢宗三郎を口説き落とし，やっと発行に間に合わせた。

峡中新聞は，明治六年四月の第九号から甲府新聞に改題，九年一月からは日刊となって題号も甲府日日新聞となり，十四年一月四日に現在の山梨日日新聞となって今日に至っている。

日本新聞博物館「ようこそニュースパークへ⑳　峡中新聞」上智大学　名誉教授　春原昭彦





尋常小學讀本

卷一

文部省

○単元終了後　事後アンケートより

資料を見て考えることについては,「好き」「どちらかといえば好き」の児童が 21 人（78%／前回 70%）であった。特に「好き」の割合が 7%→22%と伸びており，その理由として「後の勉強が分かりやすくなるから」「自分で『こうゆうことかな？』と思うと気持ちがいいから」「資料を見て自分で想像したりするのもいいと思うから」「資料からいろいろな可能性を考えるのが楽しい」「資料からどれがヒントなのか探すのが好きだから」などがあった。

本単元においては，明治時代の導入として位置付けた本時の学習活動の中で特に資料活用を重視した。結果，児童が資料を見て調べたり，考えたりする意欲を高めることができたとともに，理解を深めるためにも，資料が重要であることを再確認することができた。